

地球人類危機としてのグローバル公害問題

——北東アジアのエコ・コミュニタリアニズムと中国水汚染

小林 正弥¹

1. 地球環境危機の死角：エコ・コミュニタリアニズムの視点

2. 地球人類危機という本質的問題

- ・地球環境危機は、地球の危機であると共に、「地球人類危機」であることを自覚しなければならない。

3. 地球的公害：核問題と水汚染問題

- ・地球を全体として見れば、大地、大気、海からなっている。この中で地球温暖化問題は主として大気に関する問題であるが、大地と海の汚染に対しても注意を怠ってはならない。
- ・大地の汚染として最大の問題は、核問題である。核戦争の危険性や、原子力発電の問題性にも注意を怠るべきではない。これは環境問題としてもともと重視されていたことであり、地球温暖化問題の浮上によって軽視されてはならない。
- ・「青い星・地球」として印象的なように、生命にとって健全な水は不可欠であり、水問題や水汚染にも最大の注意を払うべきである。水問題に対しては、核問題のみならず地球温暖化問題よりも国際的な注意が遅れており、その認識を新しく高める必要がある。

¹ 千葉大学法経学部教授。公共哲学センター長。地球福祉研究センター長。専門領域：公共哲学・政治哲学・比較政治。

- ・水汚染などの汚染問題は、日本では水俣病のように「公害」として扱われてきたが、今日では食物連鎖などを通じて国境を越えた影響が増加しているので、「地球の公害」(地球の公共害)という観点から、他国における汚染問題にも警戒をする必要がある。

4. グローカル汚染(公害): 地域的汚染と地球的汚染

- ・地球温暖化問題は地球的に重要な問題であるが、そこに注目するあまり、地域的な「公害」を軽視することがあってはならない。また、今日では国際河川や海などを通じて、水汚染などは地域的にしてそれを越えており、国境を越えた(transnational)汚染(公害)ないしグローバルな汚染(公害)であることが認識されなければならない。

5. 北東アジアにおける中国の環境問題: 水汚染

- ・日本の含まれる北東アジアの地域的コミュニティにおいては、特に中国の環境問題が中国人にとって深刻な問題であるだけでなく、地域ないし地球コミュニティ全体にとっても深刻であり、国境を越えた汚染(公害)ないしグローバルな汚染(公害)であることが注視される必要がある。その中でも、特に中国の水汚染問題は深刻であり、食物などを通じて国境を越えた生命への被害をもたらす危険性があると思われる。

6. 北東アジアにおけるグローバル・コミュニティアニズム的共和主義

- ・国境を越えたコミュニティという観点からすれば、一国内の人権問題や民主主義よりもむしろ、国境を越えた環境問題の方が重要である。だから、グローバル・コミュニティアニズム的共和主義は、グローバル環境危機を積極的なアジェンダとして設定して、その解決に向けて働きかける。
- ・国境を越えた環境問題の解決には、現在の国民国家の政府からの働きかけも重要である。たとえば、日本政府は中国政府に対し、高圧的にならずに友好

的に中国環境危機の解決を求めそれを積極的に支援すべきである。こういった努力によって、国境を越えたエコ・コミュニティ（環境共同体）、さらにはエコ共和国が形成されていくべきである。

7. 北東アジアからの国際的提言：エコ・コミュニタリアニズム的共和主義の観点から

- ・エコ・コミュニタリアニズムという思想的観点からすれば、日本人、さらに地球人類は国境を越えて中国人の水汚染などの環境問題に対して関心を持ち、国境を越えた共通の課題（地球的公共善）として、友愛の精神によって解決のために努力すべきである。このためには、国際的環境ネットワークなどのように環境問題について国境を越えた公共の世界（空間）を形成すべきであり、たとえばそれを通じて中国の環境 NPO を支援するのは、そのための有効な方策であろう。
- ・日本政府は、地球温暖化問題や核問題について最大の努力を行うとともに、その近隣で生じているこの北東アジアの水汚染について、さらには汚染問題全般についても国際的な注意を促すべきである。IPCC に匹敵するような国際的な科学的機構を創設することも提案すべきである。

以上をさらにまとめれば、次のようになる。地球環境危機という地球人類危機に対し、大気に関わる地球温暖化問題と同時に、大地に関わる核問題、海に関わる水汚染問題にも警戒を怠るべきではない。そして、日本人や日本政府は、国境を越えたエコ・コミュニティの一員として、中国の環境問題、特に水汚染のようなグローバル汚染（公害）問題に対して、その解決に向けて働きかけていくべきである。これが、北東アジアにおけるエコ・コミュニタリアニズム的共和主義からの国際的提言である²。

² この個人的提言は、同名のペーパーの結論部を各章の要旨として編集したものである。エコ・コミュニタリアニズムなどの用語は、基調講演などで提起されたものであり、この講演はいずれ公表したいと考えている。